基調講演パートⅠ

「牛が馬の話をする」

講師　田浦　保穂 氏
（山口大学教授）

［プロフィール］

昭和57年東京大学博士課程修了。現在山口大学教授。（家畜外科学教室）

私は、今、火砕流に脅えている島原の家畜商の孫として生まれた野人であります。中学生の時に獣医になろうと決心はしましたが、体力をつける必要があるといってはレスリングや柔道ばかりしていました。大学の教官になった時も、私のような土に埋れ、動物と寝食を共にして来たただの田舎者が、はたしてアカデミックな世界でやっていけるのだろうかと不安でした。しかし、今はそれらが私の専攻した臨床獣医にとっては、非常に大切であるような気がします。

ところで、臨床獣医は、より高度な診断技術を用いて、自然発生の症例をサーベイし、その中から特異的な生体反応を取り出して、基礎獣医分野にフィードバックして来ました。症例の中には、もう二度と遭遇し得ないような貴重なものや、人では作り得ない自然発症の疾患モデルに会えた時や、さらに治療に反応してくれた時の感動は、相当のものであります。医学はもとより、動物学のスペシャリストとして広く生物学に貢献してきました。この10～15年間の獣医学の進歩は、めざましいものです。

講演要旨

私の田浦（Taura）の由来は牛（Taurus）と考える。また2002年はウマ年で年男である。それで本講演では、ウマ年のTauraが馬の話をすることにしたい。

1.自己紹介；今、獣医学がおもしろい。

2.山をした牛は足腰が強く、環境にも経済にも強いが、果たして日本で可能か？　持ち出さない入れない農業は可能か？　霜降り肉は大丈夫か？　突然増殖した野生動物である人類が先住の野生動物と共存できるのか？　し尿処理は大丈夫か？

3.人が保護し利用してきた馬のはなし。馬とは？　馬の歴史。馬を食う文化で動物介在療法はできるのか？　センサーを磨け。生態や生体のプラスとマイナス機能をうまく使ってストレスにうまく反応する。バランス感覚が重要、一箇所が頑張り過ぎても恒常性が壊れる。

○馬はなぜ蹄をもったのだろう？

蹄によりより早く走れるようになった（CCシンプソン）、早く走る（ピッチ＋ストライド）：人は並足・早足しかできない、馬は並足、早足、ギャロップ、キャンター背骨がポイント……爪先立ち：草食獣は腹が大きい、背中を柔らかく曲げれない（チーターは背を使う）……足を長くする→出血→角質化→皮爪。

○皮爪の欠点：ピッチをあげるには細い方が有利→横方向を少なくし、前後方向を重点化→関節は横方向は弱い(蹄関節は例外)、起立時に爪はできる、変形は起立時にできる。→偶蹄類は環境に強く、多くが子孫を残す、単蹄類は2種類のみ、……牛耕、泥田……馬は平地……(ゴルフ場で馬を飼おう、ポニーならいいかもしれない。)

○蹄なければ馬なし

○馬は北米が発祥の地。5500万年前に始祖馬エオヒップス出現(人類は400万年前)。3本指、100万年前に一本指のエクース属。北米の馬は消滅し、新大陸発見後スペイン人により持ち込まれた。エクース：馬(原種：モウコノウマ、タルパン、シマウマ)とロバ(アフリカ・アジア・ペルシャ)

○最初の馬の利用は遊牧民が先。家畜化はBC3500～3000年アーリア人(中央アジア)、目的は肉用ではなく労役用(ハミ留め)……馬車：BC4000～3000年シュメール人発明。最初は牛車、オナゲール車……馬車(スピード)。遊牧民との接触、外部から軍事的進入者により古代文明圏へ馬が持ち込まれた。

○農耕民の馬利用と強大国家の出現。農耕民により農耕作業へ。牛に次いで貴重な働き手。運搬力。スピードあり。……馬と戦車、戦争へ。農耕民も強大国になる。古代エジプトのヒクソス人への反撃。馬戦車：エジプト……クレタ島・ギリシャ、ロシア、ヨーロッパ、インド、北アフリカ、中国へ。馬は特権階級の家畜。

○人が馬に騎乗することを覚えると騎馬民族が出現。馬戦車は戦争がやりにくい。道路が必要。騎乗用動物はラクダ、ロバや、象、牛(鼻環)が最初。轡や手綱の発明に時間がかかった、アッシリ人は鞍も鐙もない裸馬に騎乗。BC800年代。騎馬人、馬遊牧民スキタイ人。ギリシャ人、ゲルマン人も騎馬民族から騎乗術を習う。

○中国の騎馬民族キョウドとフン族。良馬を求めた漢の武帝。ローマ人の動物狩り。西洋人の祖先、原始ゲルマン人。アラビア人の侵攻。騎士の誕生と十字軍。ジンギスカン(チンギス・ハン)。マルコポーロの日本記述。蒙古の日本侵攻(元寇)。アメリカ馬とインディアン。ナポレオンの騎兵隊。近代戦争の馬、今の馬。

○馬を食う。馬肉食忌避。馬を兵器にした階級や民族は馬肉を嫌う。馬刺、サクラ。ゲルマン人は馬を食っていた。宗教をキリスト教に変えてからも食っていた。アラビア人撃退にはペルシュロン種がいたからと馬を食わないように通達(ローマ法王の馬肉食禁令8世紀)、激しい反対運動あったが徐々に広まり、馬肉価格暴落。

○馬頭観音。畜生道に苦しむ衆生の救済に当たる音：大口を開けて衆生(しゅじょう)の苦悩を食らい尽くす、飢えた馬が草を求めるように衆生の救済に専念する、邪悪を踏み砕き衆生の悟りを成就させる。多くの馬まつり。

馬の文化＝総合的にみた馬：

○人の文化：とる(狩猟)→たべる(食料)→めでる(鑑賞・愛玩)→あそぶ(遊戯・象徴化)→あがめる(崇拝)→おう(駆除)→えがく(代用・表現)の過程

1. 家畜化以前の馬
2. 日本における人と馬のかかわり：薄い…武人、戦争、競馬、JRA、乗馬
3. 古代の牧から近代牧場へ
4. 国立牧場の設立：下総御料牧場(現成田空港)、新冠御料牧場
5. 馬事研究所設立・馬事団体の設立
6. 近代競馬の発達

日高：母馬・牡馬1～1.5万頭、休養馬いれて3万頭。昔は15万頭いた。